

# 時空人NEWS

時空人NEWS は [www.jicoojin.com](http://www.jicoojin.com) よりダウンロードできます。

982-8577  
仙台市太白区八木山香澄町35-1  
ce.manage@tohtech.ac.jp  
TEL (022) 305-3513 FAX (022) 305-3501

## 特集

プランナーへの  
ファースト・ステップ

Page 2

## 研究・実践 最前線

公開体験講座

「緑の楽校」の取り組み Page 4

Concrete とともに Page 5

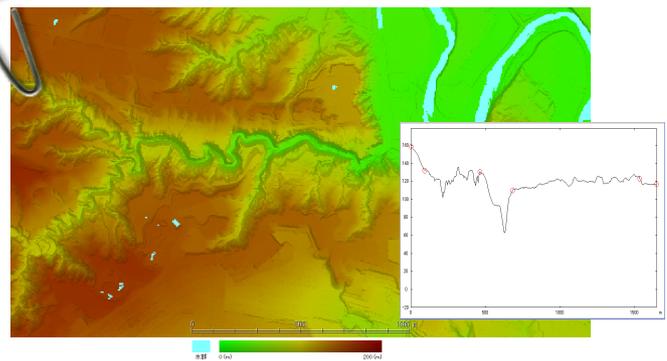
## 時空人紹介

村井 貞規 教授 Page 6

佐藤 吉秀 (4年生) Page 7

## 情報ひろば

(シンポジウム・入試情報) Page 8



八木山遊歩道計画に用いた地形図 - Page 2



広瀬川への架橋提案 - Page 2



緑の楽校 - Page 4

## 高校生フォトコンテスト 2011

未来を支えるまちづくりをするために

『若い人たちの目からみたまち』

をテーマにしたフォトコンテストを実施しています。

詳細は [www.jicoojin.com](http://www.jicoojin.com) をご覧ください。

悠久の **時** をとらえ 資源と **空間** を活かし

思いやりのある都市や地域を創造して

**人** と結ぶ それが **時空人** 。

従来の学科とは違う、都市マネジメント学科のあり方です。

## 特集 プランナーへのファースト・ステップ

今年度より都市マネジメント学科が始動しましたが、学科の最大の特徴はコース制にあります。行財政や経営の基礎知識、地域社会の活性化などを中心にして学ぶ**プランナーコース**と、社会基盤に関する高度な工学的知識を学ぶ**エンジニアコース**の2コースを設置しており、学生は2年進級時に各コースに分かれます。

エンジニアコース履修生は、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定の「建設システム工学科」の学びを受け継ぎ、社会基盤に関する高度な工学的基礎を学び、技術力・エンジニアデザイン力を持つプロフェッショナルを目指します。

一方、プランナーコース履修生は、社会基盤の基礎知識に加えて、財政・経済・経営の基礎知識、物流、地域社会の活性化、観光資源の創生と保存について学び、社会問題の改善に貢献できる人材を目指します。

コースの概要については、ガイダンスやセミナー等を通じて説明していますが、大学1年生にとっては、「プランナー」という仕事が漠然としているようです。

そこで、本年度前期の課外時間にプランナー研修を開講し、プランナーの仕事の流れを体験する機会を設けたところ、都市マネジメント学科1年生59名中25名が受講し、プランナーに関係する各課題に受講生が取り組みました。

### プランナー研修の概要

研修開講にあたり、学生には以下の達成目標を示しました。

1. プランニングを理解し、他者に説明できる
2. 他者と協力して、問題を解決する能力を習得する

稲村肇教授、今西肇教授、青木俊明准教授（経営コミュニケーション学科）、菊池輝准教授の4名の担当教員が各々1テーマを提示し、受講生には期間内に2つのテーマを選択させました（1つの課題につき14コマ分の時間を使いました）。いずれのテーマも基本的な研修の進め方は、1)現地見学、2)資料収集・分析、3)とりまとめ、4)プレゼンテーション、という共通した流れになっていますが、詳細については各教員が個別指導を行いながら進めました。

### 各テーマの取り組み

以下では、学生に提示した4つのテーマの概要を紹介します。すべてのテーマが「社会問題の原因を理解し解決策を提案できる」能力を身につけさせることを意識したものになっています。

### テーマ1:沈下橋による広瀬川河川敷の有効利用計画 (指導:稲村教授)

#### <課題の概要>

広瀬川は仙台市中心部を流れる美しい川です。しかし中心部では谷が深いこと、河川敷が蛇行によって断続的であるため都市的利用が進んでいません。そこで建設費の安い**沈下橋**を建設し、河川敷を連続させ、サイクリングやスポーツ、レジャーの場とすることを検討させました。

#### <スケジュール>

##### 第1回 架橋の適地を探そう

(牛越橋～御霊屋橋まで徒歩による現地調査)

##### 第2回 現地調査のまとめ、潜水橋を調べてみよう

##### 第3回 橋を設計しよう(代替案も考えよう)

##### 第4回 散歩とサイクリング以外の使い方を考えよう

##### 第5回 特徴と問題点をまとめよう

##### 第6回 プレゼンテーションの練習

#### <受講生の提案例>

仙台市のイベント会場の1つ西公園周辺に着目し、図に示す位置への架橋を検討しました。西公園はお花見場所として有名であり、そこに季節に応じた花木を栽培することで、春以外でも四季折々の自然に触れ合う環境を整備します。また日本の文化の1つである「空き地」を設け、幅広い年齢層に利用してもらえるようにします。



図 広瀬川への架橋の提案例

### テーマ2:八木山の自然と調和したまちづくり (指導:今西教授)

#### <課題の概要>

八木山と仙台城址を結ぶ遊歩道をつくり、八木山の自然環境と調和した観光資源の活用を推進し、地域のまちづくりに貢献することを目指しました。そのために対象地域を歩き、肌で直接その地域を感じて**遊歩道**のルートや必要な施設を検討させました。

#### <スケジュール>

##### 第1回 課題説明

##### 第2回 現場見学

(大学—仙台城址—ベニーランド—動物公園)

##### 第3回 ソフトウェアの基本的操作を習得

##### 第4回 仙台市の都市計画を検索する

(八木山って仙台市にとってどんな所?)

##### 第5回 八木山周辺の地形図を用いた

遊歩道のルートづくり

##### 第6回 プレゼンテーションの準備

### <受講生の提案例>

右下図に示すような地形図や遊歩道断面を参考に、「自然を活かした遊歩道」を計画しました。遊歩道の途中には、杜の都の自然イメージを強調した吊り橋を設けます。また休憩スポットとしてレストランやカフェも沿道に設置し、長い道のりも疲れを感じさせず、さらには木造建築とすることで、自然と触れ合う場所もなります。

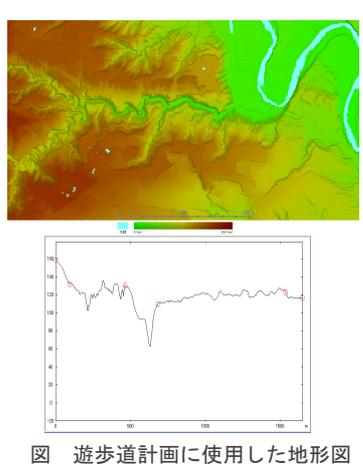


図 遊歩道計画に使用した地形図

### テーマ3:仙台市内におけるタクシー問題の改善方法 (指導:青木准教授)

#### <課題の概要>

仙台市内では2002年の規制緩和以降、タクシーに起因する交通問題が多く発生しています。本課題では、仙台市内の**タクシー問題**の概要を理解し、その改善策を提案することを目的としました。

#### <スケジュール>

- 第1回 課題説明
- 第2回 タクシー問題の現状理解(情報収集)
- 第3回 現場見学とインタビュー調査(下写真)  
(JR仙台駅前~広瀬通~定禅寺通)
- 第4回 問題の整理
- 第5回 改善方法の検討
- 第6回 発表資料と報告書の作成



写真 タクシードライバーへのインタビュー

#### <研修の成果>

多くの学生が仙台市内のタクシー問題のことは知りませんでした。インターネットや専門雑誌等で情報を得ることにより、問題の仕組みと本質を理解するとともに、その改善策を検討できるようになりました。具体的な提案としては、賃金水準の向上と魅力的な外観を備えた名物タクシーの導入、二種免許の難易度を高め取得率を低下させる提案、早期定年制度の導入などがありました。研修後、ほぼ全員

が「自分の目で確認し、考えることの重要性を痛感した」との感想を述べていました。

### テーマ4:バスインフォメーションの課題を考える (指導:菊池准教授)

#### <課題の概要>

住みよいまちづくりのために**公共交通をもっと活用**すべきですが、バスの路線が分かりにくいという声も少なくありません。そこで何が「分かりにくい」のかを理解し、その改善策を検討させました。

#### <スケジュール>

- 第1回 バス利用者にとって必要な情報とは?  
(現場見学の計画)
- 第2回 現場見学  
(仙台駅~博物館~メディアテークをバスで移動)
- 第3回 何が分かりにくい?(現場見学の整理)
- 第4・5回 改善策の検討
- 第6回 プレゼンテーションの準備

#### <研修の成果>

何が分かりにくいのか、という課題の発見については、たくさんの意見が出ましたが、その中でも「路線図」と「時刻表」に着目し、改善を図りました。提案のポイントは次のように整理しました。

#### ○路線図(下図)

- ・地図上にバス停を記載し、途中の経路を分かりやすくする
- ・本学関係者がよく利用すると思われる降車バス停までの時間と運賃も路線図に記載する

#### ○時刻表

- ・本学関係者のバス利用時間帯や行き先を考慮し、必要最小限の情報のみを記載する
- ・持ち歩きやすいサイズに収める

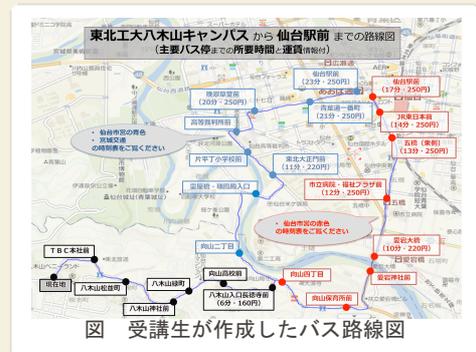


図 受講生が作成したバス路線図

### プランナー研修を終えて

自分で問題点を整理し、改善策を提案し、それを発表するという一連の作業が、ほとんどの受講生にとっては初めての体験だったようです。「伝えたいことを整理すること」、「適切な表現で伝える」こと、の2点がプレゼンテーションの極意であり、このどちらかが不十分な場合、せっかく良い提案をしても社会的に受容はされません。各々がプレゼンテーションの難しさを実感している様子でしたが、検討の時間を重ねるたびに、着実な成長が伺えました。社会問題の改善に貢献できるプランナー育成に向けた第一歩という本研修の狙いは、達成できたと感じています。

## 公開体験講座「緑の楽校（みどりのがっこう）」の取り組み

松山 正将 教授

### はじめに

東北工業大学長町キャンパスは面積約20haを有する東北少年院跡地を1987年に本学が取得したもので、造成工事をはじめ教育・研究に必要なすべての建物や施設は1990年3月に竣工し、同年4月から学生を受け入れ今年で開設22年目を迎えています。

しかし、キャンパス周辺の長町地元住民の方々には、東北少年院開設時代から開設に伴う地形改変が自然環境豊かな住環境の荒廃につながることを懸念し開設反対の運動がありました（開設1949年～閉院1977年）。本学の第二キャンパス開設に対しても同様でしたが、この地域は既設道路幅が狭く曲がりくねった箇所も多いことから学生や教職員の通学・通勤と関わり、交通事故や騒音・振動などの新たな課題も提起されていました。

私たちの研究室ではこの様な経緯に配慮して、本学が長町キャンパス造成時の残存緑地を仙台市指定の保存緑地として1995年に登録（正式名称「No.46ニッ沢保存緑地」約7.24ha）した事を契機に、長町キャンパスの位置する大年寺山全体の自然環境と歴史・文化資源の保全調査をスタートさせ、地域づくり支援情報としての整備充実の取組を展開していました。

今回は大年寺山界隈に住む方々を対象に、2009年度から開講している「緑の楽校」を通して、キャンパス隣接町内会との地域づくり連携模索の取組について報告いたします。

### 大年寺山界隈について

長町キャンパスの位置する大年寺山一帯は、中世の茂ヶ崎城跡（もがさきじょうあと）や徳川幕府藩政期の伊達家藩主廟はじめ関連寺院跡など、歴史的にも自然環境的にも豊富な地域資源が数多く残さ

れ「大年寺山風致地区（面積約67.2ha）」とされている地域でもあります。

風致地区とは、都市計画区域内に存在する樹林地またはこれと一体となった水辺地もしくはその状況が、これらに類する土地で良好な自然環境に富んでいる土地について、都市環境の保全のため風致を維持することが必要な土地として、まちづくりの基本となる都市計画に定められている地区のことです。現在仙台市では、この地区を含め合計八カ所面積約270.9haを指定しています。

### 公開体験講座「緑の楽校」

開講初年度となる2009年度は、これまでの保存緑地調査資料を活用して樹木の炭素固定機能に主眼をおいた学習活動を行いました。体験事例としてはキャンパス造成斜面に繁茂している樹木の中から「ハリエンジュ」を対象にして、地上1.2m位置の胸高直径20cm樹高14mを伐採して、年輪観測など通して生長過程を学び、樹幹の材積などを計算して固定されている炭素量を定量的（約92kg：二酸化炭素量に換算するとおよそ3.67倍の約337kg）に把握しました。受講された住民の方々には、身近な樹木の多様な役割に加え、温暖化に関わる二酸化炭素の固定機能と定量的な情報は大変新鮮だったようです。



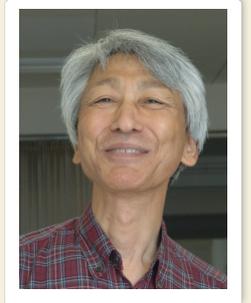
2010年度は樹木の多様な機能に加え、学習対象範囲を大年寺山全域に拡げて、地形の成り立ちから

はじめに古墳時代から現在までの地域資源文献調査と現地学習活動も行いました。大年寺山には仙台藩藩祖伊達政宗から戊辰の役までの藩主十三名のうち、八名もの藩主墓域があることを知っていた方はごく少数でした。このように伊達家歴代藩主墓域はじめ鹿除土手跡（しよけどてあと）や木流堀（きながしほり）などの現地調査で収集した資源情報は、現在「大年寺山ガイドマップ」作成活動へとつながっています。

また、昨年12月4日には講座支援者の方から、長町キャンパス隣接地での二ホンカモシカ撮影画像情報を提供戴きました。この大型野生動物の画像情報は、人と自然が新たに共生できる地域単位が河川の流域圏であり、緑のつながりがいきもの全ての生命のつながりであることを受講生ともども再認識できる機会となりました。



加えてこの年の講座で特筆すべきことは、大年寺山地元住民町内会の一つが伊達家墓域の清掃を町内会の年間行事として積極的に組み入れてくれたことです。戊辰の役（1868年）後今日までの長い年月、広い墓域の清掃などは伊達家にかかわりの深い方々がボランティアで落ち葉掃きや清掃を行っていましたが、関係者の高齢化が進み途絶えがちになっていまし



た。地元住民の方々の「緑の楽校」受講を機会に、伊達家墓域管理の窮状を知るに至り、町内会組織として清掃等の対応が検討され新しい地域連携の交流の輪ができたことは、この講座が意図していたことでもあります。

このように大年寺山の現地調査を通して収集した地域資源確認の経験は、地元住民受講生の方々の視野をも広げ仙台広瀬川の自然環境と歴史や文化の伝承を、現地調査を通して情報づくりを行い、市民の方々へ発信しようという要望とチームづくりへ結実することにな

りました。このような要望の背景には、特別天然記念物の二ホンカモシカがどのような緑地空間を往来しているのかを確かめてみたいという動機もその一つになっています。

2011年度の「緑の楽校」では、前年度受講生の要望を積極的に採り入れて、旧仙台市街地沿いを流下する広瀬川にかかわる地域資源の学習と現地調査を実施しています。教材文献には著名な郷土史家三原良吉著「広瀬川の歴史と伝説(宝文堂)」を採用し、現在受講生とともに内容確認と共に現地調査を継続しています。

## おわりに

このような市民活動をこれからも継続的に展開できれば、地域の自然と歴史・文化を視野に入れた地域づくりに幅と深みを加えることも可能と考えているところで

付記：この公開体験講座「緑の楽校」には、2009年度～2011年度仙台市太白区まちづくり活動助成事業から、助成金交付対象事業として指定を戴いています。

## Concrete とともに

私は、平成2年4月に本学に着任し、今年度で22年目となります。初年度から卒業研究生を担当し、現在の4年生は第22代小出研学生、本学科は3年生後期開始時点で卒業研修のための研究室配属を実施するため、現在の3年生は第23代小出研学生となります。

私の専門の「コンクリート」分野では、研究過程において実験を多数実施し、また少人数での実施は作業上困難なため、研究活動を通してメンバー（同級生）間の横のつながり、院生と学部生、3年生と4年生の（異学年）間の縦のつながりが強く、その関係が卒業・修了後も続いているようです。

平成2年3月に東北大学より工学博士の学位を頂きましたが、研究では、現在のコンクリート標準示方書（橋などの社会資本整備に関わるコンクリート構造物を設計する際に誰もが用いる設計基準書）でも採用されている各種安全係数（設計計算時に不確実性等を考慮する目的で、材料強度を割り引いたり、荷重の値を割り増したりするために用いる各種係数）について、コンクリート構造物としての目標の安全性（例えば、破壊を想定する場合は目標破壊確率 $1.0 \times 10^{-5}$ など）をも満足するように、それらの値をコンピュータによる数値シミュレーションによって評価・決定しました。コンク

リート構造物の設計に関する基本的な考え方が平成以降顕著に進歩するのですが、その当時はまだ「許容応力度設計」（今でも簡単な構造物の設計には用いられている）という名称の設計法でした。しかしコンクリート構造物の様々な挙動等が各種研究によって明らかになるにつれ、より合理的な設計法（限界状態設計、性能照査型設計）が必要となり、その中で、私がテーマとしていた各種安全係数も活用されています。

本学に移り、実験環境が非常に整っていたこともあり、その後次第に実験中心の研究へと移行しました。その一つが、「コンクリート構造物の強度に関する寸法効果」に関しての実験的研究です。形状が大きくなるほど構造物内に弱点も増えるので、見かけの強度は下がるというものです。同一のコンクリートを用いて多数の無筋コンクリート梁（百本以上）を作成し、同じ力が作用する部分の長さを変化（破壊する可能性があるコンクリート部分の体積を変化）させ、コンクリート構造物としての強度がどの程度下がるのかを統計的に確かめました。その結果、その強度低下が、ある仮定に基づいたときの式で示せることがわかりました。この研究成果を海外の学会や論文で発表したところ、このような地道な実験とその結果が注目され、その後も、ACI（アメリカコンクリート学会）の論文集等

で、他の研究者から Koide's data として引用して頂きました。

現在の私の研究の中心は、「再生コンクリート」がキーワードとなっています。今回の大震災でも東北地方に大量の廃コンクリート塊が発生しました。しかしながらこの問題は震災前からあり、破砕し再び新しいコンクリート用の材料に用いることが動きだしていました。ただし、破砕した廃コンクリート塊を骨材（砂利）の代わりに使用（「再生骨材（写真）」と呼びます）したコンクリート（「再生コンクリート」と呼びます）は、強度・耐久性に問題が生じます。最大の原因は、再生骨材には本来の石の部分にモルタル（いわゆるセメントの部分）が付着しているからです。既にJISの規格によって、その付着状況等に応じて、再生骨材H、M、Lの3レベルの品質が決められています。再生骨材Hは付着物が少ない状態のもので

## 小出 英夫 教授

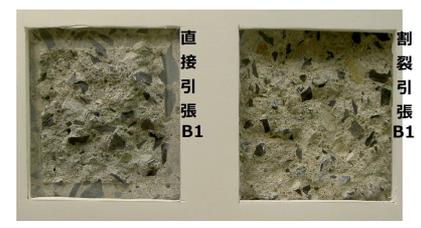


あり、通常の骨材と同様に使用することが許されていますが、付着物を取り除くためには大きなエネルギーを要し、その点で問題があります。

そこで、Hよりも品質の劣る再生骨材Mを現状より広く使用できるようにするため、再生骨材Mを用いた再生コンクリートの諸性質について実験的研究をしています。特に、コンクリート構造物の設計計算上は無視されるのですが、コンクリート特有のひび割れ発生に関する検討には不可欠の「引張特性」を研究しています。この研究の中では一軸引張試験（写真）が必要になるのですが、



この試験については、本学科在職中にその特殊な実験方法を考案された本学名誉教授秋田宏博士の協力を得て実施しています。コンクリートは通常最大2~3cmの大きさの骨材が含まれる複合材料のため、引張試験を行うには一般に約10cm四方の断面が必要となります。しかし引張に弱く容易にひび割れが発生する材料を、破断するまで真直ぐ引張続けることは非常に困難（曲がったまま引張っては、正しい一軸引張試験とならない）です。



我々が特殊な方法を用いて正しい一軸引張試験を実施した結果、他の手法による簡易的な引張試験（例えば割裂引張試験）では導くことができなかった、再生コンクリート特有の破断面の状況（写真）や、引張強度の測定値そのものの試験方法による違いを知ることができました。これらの実験を進めていくことで、再生骨材Mを用いた再生コンクリートの性質がより明確になり、そのコンクリートを安心して利用できる用途が拡大すれば、今後、より一層効率的な廃コンクリート塊のリサイクルが進むものと考えています。

最後にもう一つ、私がとても注目しているものがあります。それは、再生骨材を製造する際に発生する「微粉」の取り扱いです。廃コンクリート塊を砕く際、また、再生骨材に付着しているモルタルを何らかの方法である程度除去し再生骨材H、M、Lを製造する際、必ず微粉が発生します。コンクリートの製造に関係する派生物なので、問題点も多いのですが、やはりコンクリートの材料として使う（コンクリートに混入する）ことが処理方法としては望ましいと考えます。

「微粉」といっても、元となる廃コンクリートが異なれば当然異なる性質の「微粉」であり、同じ廃コンクリートからでも再生骨材を製造するまでに使用する破砕機器等が異なれば、それが原因でやはり異なる「微粉」となります。コンクリートの品質に問題を生じさせる微粉であるため、それをコンクリート材料として利用しようとするならば、当然のことながら、利用する微粉の諸性質（例えば、密度、吸水率、成分、形状、比表面積など）を知る必要があります。しかしながら、実際に利用する現場ごと、これらの性質をそれぞれ測定することは非常に困難であり、このことは微粉の活用を阻害することにも繋がります。そこで、前述の諸性質を、何か簡単な新たなパラメータで、「微粉」のコンクリートに関わる性質を総合的に表す方法を見つけたいと考え、実験を行っています。結論には至っていませんが、例えば、ある特定の砂に測定対象の微粉を混入し、土の実験である「締固め試験」を行うことで、微粉の吸水率、形状、比表面積などを統合した1つの評価指標になりえる可能性を見いだしています。

今回の大震災を受け、その復旧復興に携わる優秀な技術者等を輩出するため、今まで以上に大学教育に力を入れなければならない時期ではありますが、研究者として、世に役立つ研究にも力を入れ続けていきたいと思っています。

## 時空人紹介

### 村井 貞規 教授

#### 研究内容

専門分野は「道路・交通工学」です。「道路」と「交通」の間に「・」が入っている理由は研究対象を「道路交通」に限定されるのを避けたいためです。「道路」については車道や歩道の道路構造、舗装材料の力学特性などのハード面と、道路景観などのソフト面を研究対象としています。特に東北地方の大学としては唯一の「アスファ

ルト」に関する本格的な実験室を有しており、公的な試験機関としても認定されています。

「交通」については地震や津波そして台風などの自然災害が道路ネットワークに及ぼす影響の分析とそれに基づく将来計画に関する研究を行っています。

#### 大学というところ

大学では、それぞれの学生が卒業後専門の世界で必要となる

基礎・応用の知識を身に付けることが主な目的になります。また社会に出ると専門も含め色々な場面で主体的に判断し、正しく行動することが求められますが、そのために必要となる人文科学、社会科学などのリベラルアーツといわれる科目群がカリキュラムに組み込まれており、これらについてもしっかりと学ぶことが必要です。東北工業大学では前者を「専門教育科

目」、後者を「教養教育科目」と呼んでおり、これらが櫛の歯のように組み合わせられてカリキュラムを構成しています。

さらに強調しておきたいのは、大学特に工科系の大学の特徴は「教育」と「研究」が表裏の関係になっていることです。個々の教員にはそれぞれの専門についてさらに細分化された研究分野があり、「教育」の中にもその講義をする教員の経験が反映されています。また学生がこの研究の一端に具体的に触れることになるのが「研修」科目です。研修では専門に関する広範な内容の中から設定された具体的なテーマに取り組み、卒業論文を仕上げ、大学を卒業することになります。またこの専門の

内容にさらに詳しく触れてみたい場合は大学院に進学し、より深く学ぶこともできます。

最後に私の研究室での研究内容を簡単に紹介しましょう。舗装材料の「アスファルト」については、今最も重要であると考えているアスファルト混合物の再生をテーマにした研究を行っています。我が国の舗装の大半を占めているアスファルト舗装から出るアスファルト混合物廃材は、建設材料のリサイクルの中では優等生といわれていますが、それだけに再生や配合設計に伴う問題も多く含まれているのです。

また交通ネットワークについては「自然災害が道路ネットワークに及ぼす影響」について

研究しています。私は岩手の出身なので以前から津波について関心があり、歴史津波と道路ネットワークの関係について研究して来ました。今回の震災による津波の被害の中で、道路は本当に「生命線」として機能していることを再認識しました。この震災からの復旧における道路の役割と問題点をしっかりと分析し、将来の道路ネットワークのあり方を検討していくことが重要であると考えています。なお東日本大震災の「道路・建物」「空港舗装」「都市」の被害を学科のホームページで報告していますのでご覧ください。もし、こうしたことに関心があるならうちの学科に来て一緒に研究に取り組んでみませんか。



### 村井 貞規 教授 略歴

1967年 岩手県立盛岡第一高等学校卒業  
1972年 東北大学工学部土木工学科卒業  
1977年 東北大学大学院工学研究科  
博士後期課程満期退学

1977年 東北大学助手  
1985年 東北工業大学助教授  
1994年 東北工業大学教授  
学位1984年3月 工学博士（東北大学）

## 佐藤 吉秀（建設システム工学科4年生）

私が在籍している高橋研究室では、海岸工学（海岸防災、海岸利用等）の研究を行っており、その中で私は特に越波対策工について勉強をしています。

そのため、3月11日の地震で発生した津波の被害を目にしたとき、「この波が防波堤や護岸で止まれば被害は少なく済んだのでは」と感じましたが、そのためには巨大な防波堤を設置しなければなりません。しかしそれではコストが掛かりすぎるため、今は堤防によって津波を減少させる「減災」の構想を考えています。

学内での生活は、忙しいながらも楽しんでおります。1~3年までは実験や実習のレポートやテストに追われ、所属していれば部活やアルバイトにも追われ、そして遊びに追われます。しかしこの忙しさは、ある意味大学生の特権ともいべき素晴らしいものです。全力でやればそれだけ成長でき、その過程で

の成功や失敗などの経験は人生の財産になります。そんな気持ちで日々を過ごせば、自然とやる気が出てきて、楽しんで学生生活を送ることが出来ます。

4年になると、就職活動が始まります。ここで役に立つのが3年間で、失敗したこと、乗り越えたこと、成し遂げたこと、その時の努力等々、挙げればきりがありませんが全力でやるほど良い話ができるようになります。就活はピークになるととても忙しくなります。それこそ、平日だろうが休日だろうが試験や面接を行うので、授業が重なると困ってしまいます。ここでまた、3年間を全力でやっていた人はよかったと思うでしょう。授業の数がグンと減りますからね。頑張った人へのご褒美といったところでしょうか。とは言っても研修はありますから、油断大敵ですね。

私も研修を進めながら公務員試験を受験しましたが、他に授

業が無かったおかげであまり苦労せずと同時進行させながら合格することができました。（**塩釜市役所**内定）

最後にメッセージですが、入学したら、勉学、部活、アルバイトを頑張るのはもちろんですが、その他に人との交流にも力を入れてみてください。大学という場所は、出身が県外という方や、同学年で年上という方が大勢居ます。その人たちとの会話は友人が増えるだけでなく、己の視野を広げること、コミュニケーション能力の向上にも繋がります。高校では得られない、専門的な知識とは別に、絶対に損はしないスキルとなりますよ。



## 情報ひろば

### 観光振興シンポジウム 三陸地方を中心として

東日本大震災から10ヶ月、地域社会の復興はまだ、緒についたばかりで、明るい希望の光は見えていません。こうした現状に対し、国土交通省、観光庁は被災地の主要産業の一つである観光を起爆剤として地域経済の立て直しを図っています。

東北工業大学・都市マネジメント学科は、そうした活動を支援すべく、地域貢献の一環として観光シンポジウムを主催いたします。基調講演には我が国の観光研究の第一人者、政策研究大学院大学教授-森地茂氏、観光庁がバックアップする観光復興提言の解説に観光庁観光地域振興課長-七條牧生氏をお迎えしております。後半は都市マネジメント学科教授-稲村肇氏をコーディネーターに産官学の専門家によるパネルディスカッションで、東日本大震災後の東北三陸地方の観光の振興について、広く議論いたします。

日時：2012年1月13日（金）13:00-17:00 入場無料  
場所：仙台ガーデンパレス（<http://www.hotelgp-sendai.com/>）

その他詳細につきましては、<http://www.jicoojin.com/CEM/event/> をご覧ください。

問い合わせ先

東北工業大学都市マネジメント学科 事務室 電話：022-305-3535

### 平成24年度入試要項

	出願期間（必着）	試験期間	選考方法
大学入試センター試験 利用入試（1期）	平成24年1月4日 ～1月27日	（個別試験は課さない）	3教科3科目を選択 （数学・理科は必須では ありません）
大学入試センター試験 利用入試（2期）	平成24年2月14日 ～3月1日		
一般入試（A日程）	平成24年1月4日 ～1月20日	平成24年2月3日, 4日, 5日 （複数回受験可能）	国語・英語・数学・理科から 3教科3科目を選択
一般入試（B日程）	平成24年2月14日 ～3月1日	平成24年3月6日	国語・英語・数学・理科から 2教科2科目を選択

※詳細につきましては、本学ホームページ（[www.toitech.ac.jp](http://www.toitech.ac.jp)）をご覧ください。

### 編集後記

早いもので今年も師走です。4年生の卒業研修も追い込みに入り、また3年生の就活が本格化しました。慌ただしい生活に追われ、時空人NEWS Vol. 2 の発行が予定より遅く

なりましたこと、お詫び申し上げます。また、ご執筆いただきました皆さまに御礼申し上げます。来年も温かいご支援をよろしくお願いいたします。（記：菊池 輝）

「時空人NEWS」Vol.2

発行者／東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科

982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 Tel:022-305-3513 E-mail:[ce.manage@toitech.ac.jp](mailto:ce.manage@toitech.ac.jp)